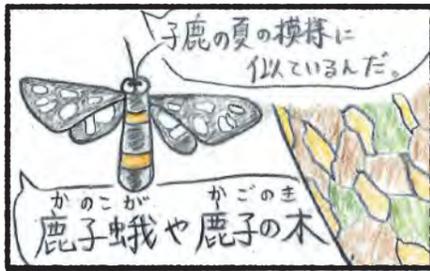


たかおさん

「鹿」がつく生き物」の巻



作・絵：いしかわ

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて配布しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

Twitterでお知らせ！ 高尾ビジターセンターニュース

高尾ビジターセンターのX(旧Twitter)・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。

高尾ビジターセンター【公式】@takaovc・9月5日

天気：晴 気温：23.0℃ 富士山展望：△

1号路女坂の下に存在感の強いきのこを発見
つい足を止めて見てしまう、このきのこの正体は
#タマゴタケです!昨日の時点でも頭が出ていましたが、
一晩でここまで成長しました🍄
カサを開く前や、成長しきった姿も見れます!
#高尾山 #高尾ビジターセンター



午前10:00・2024年9月5日・9,859件の表示

山のポストのエンゲージメントを表示

今回反響が多かった投稿は、窓口での問い合わせも多いタマゴタケです！
森の中でこのキノコを見つけると、「おもちゃみたいなのに自然物なんだ!」
と何度も驚かされます。

解説員 こらむ vol.39

ロマンチック高尾山

私は高尾山山頂から見た富士山が大好きです。高尾山頂からの富士山眺望は「関東の富士見百景」にも選定されており、手前に被る山も少なく圧巻の見栄えです。特に、例年10月初旬頃に富士山は初冠雪を記録しますが、冠雪量が増えるとその存在感がさらに増し、一回りも二回りも大きくなったように感じるのが不思議です。そんな高尾山から見た富士山ですが、1年で最も注目されるのが12月に見られる「ダイヤモンド富士」です。ダイヤモンド富士とは、富士山頂に太陽が重なる瞬間、ダイヤモンドのように輝く現象のことです。高尾山では夕日のタイミングで観察することができます。つまりこの瞬間、太陽と富士山と高尾山が一直線に並ぶわけです。そして、注目していただきたいのは、高尾山ではこの現象が年に一度の「冬至」に見られるということです。

冬至とは、太陽の動きに基づいて定められた1年のうちで最も昼が短く、夜が長い日のことです。冬至は古くから重要な意味を持つ日として様々な国や地域で文化・風習が残っており、有名な遺跡としてはイギリスのストーンヘンジなどがあります。

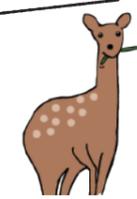
これほど重要な日に、高尾山でダイヤモンド富士が見られるなんて、もしかすると、薬王院が高尾山に開山された背景にも、富士山と太陽との位置関係していたのでは…!?と、宇宙規模のロマンを感じながら、今日も高尾山山頂から富士山を眺めるのでした。

〈解説員 うめだ〉

高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。



vol.77 季刊
2024年 秋号



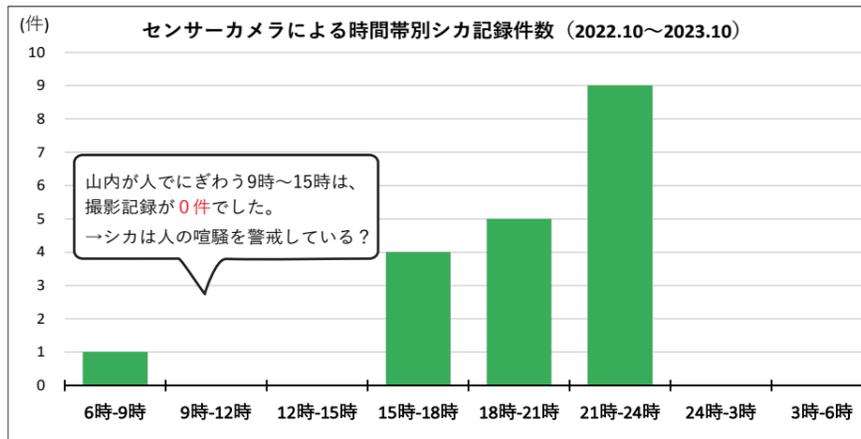
増えるシカは
高尾山の景色を
変えるのか。

広がるシカ問題

ニホンジカによる自然植生への食害は、地域により大きく景観を変えてしまうなど、全国的に問題視されています。植物の宝庫と呼ばれる高尾山でも、近年シカの日撃情報が増えています。

※写真は奥多摩町にて撮影

高尾山での記録は夕方～夜に集中し、日中の記録も朝方。



R6.7/23 AM8:03 高尾山ケーブルカー沿線

ニホンジカは本来昼夜問わず活動します。しかし人里近くでは、人を避けて夜にやってくると考えられており、高尾ビジターセンターのカメラによる調査でもシカは人の少ない時間に記録されています。高尾山内でシカが確認されるようになった2013年から11年の月日が経ちました。他の山と比べて人が多い高尾山では、今後どのようにシカの影響が現れるのでしょうか。

高尾山の植物とシカの「好き・嫌い」

日本でシカが食べることが確認された植物は1000種類以上。様々な種類の植物を食べるシカにも、食べ物の好き嫌いがあるとされています。高尾山にやってきたシカはどんな植物を食べて、何をさけるのでしょうか。

好きな植物	嫌いな植物
リョウメンシダ	ウラジロ
スギ	オオバインモトソウ
リョウブ	マツカゼソウ
アオキ	アセビ
ヤマグワ	ヒトリシズカ
クマイチゴ	ヤマシャクヤク
モミジイチゴ	マンリョウ
ノブキ	キジョラン
タラノキ	シロヨメナ
ムラサキシキブ	シモバシラ
ガマズミ	ハシリドコロ
ウバユリ	テンナンショウ類
ヤマツツジ	ツチアケビ
イネ類	ミヤマウスラ



高尾山より早くシカが増えた御岳山では、シカが好んで食べた場所(頭が届く範囲)が見える「ディアライン」と呼ばれる境目が確認されるようになりました。食害が目立つ地域ではその場所にはシカが嫌いな植物ばかりが残り、植生が乏しくなることが報告されています。



高尾ビジターセンターの取り組み

ニホンジカによる食害問題は全国で様々な取り組みが行われているものの、未だに有効打が見つからないのが現状です。しかし、シカの侵入が比較的初期段階である高尾山において、現在のシカに関する記録は、今後対策を行う上で重要な記録となります。



登山道巡視 (5号路シカ食痕)
植物の宝庫と呼ばれる高尾山。シカにとっては「ごちそうの宝庫」です。解説員はほぼ毎日山内を歩き、山内の自然の変化に眼を光らせています。



自動撮影カメラ
シカなど日中観察が難しい動物の調査を行っています。目撃情報も貴重なデータになります。山内でシカを目撃したら是非窓口のスタッフへお知らせください。



シカ下層植生調査
シカによる食害は、影響が大きくなるまで目立にくいですが、地点を決めて継続的に調査を行うことで、植生の変化を記録することができます。

自然と歴史が調和する高尾山
高尾山は古くから、自然保護と人の営みのバランスが保たれてきたことにより、国立公園に選定されました。受け継がれてきたこの自然は豊かなだけでなく、私たちに自然に触れ合う機会を与えてくれる貴重な場所でもあります。長い月日が育んだ高尾山の貴重な自然は、今後シカの増加と共に変わってしまうのでしょうか。都心から近い高尾山だからこそシカ問題を身近に感じ、本号をきっかけに関心を持っていたら幸いです。
〈解説員おかだ〉

参考文献：日本におけるニホンジカの採食植物・不嗜好性植物リスト シカ不嗜好性植物図鑑(神奈川県自然環境保全センター)



高尾山お土産物の今昔

よりどりみどりのお土産物。みなさんは高尾山で何を買いますか？

高尾山が位置する浅川地区では、お土産物の生産が盛んに行われてきた歴史があります。

大正〜昭和にかけて、高尾山や多摩御陵を訪れる観光客向けの土産物作りが、近隣の農家の副業として行われてきました。『八王子市西南部地域 浅川の民俗』では、高尾山麓で有名な土産物として、おもちゃ笛のはじまりとされる「うぐいす笛」、動物をかたどった「豆細工」、縁起物の「魔除け天狗面」(以降、天狗面と表記)が記されています。今回は、高尾山薬王院とも関わり深い天狗面についてご紹介します。

天狗面は、石膏で作られた天狗と烏天狗の素焼き面を対にして板に結び付け、薬王院で御祈祷を受けた小さな護摩札をつけたものです。天狗は赤と白、烏天狗は黒みがかった緑色に一つずつ手作業で色付けされたため、大量生産はできませんでした。

高尾山周辺の浅川地区では、天狗面作りを副業としている農家がありました。江戸時代から270年以上にわたって書き続けられている『石川日記』にその記録が残されています。

昭和5年4月19日
「内職高尾山魔除天狗面制作多忙ナリ」
毎年春に薬王院で行われる春季大祭前に制作で忙しかったことが伺えます。

昭和6年10月30日
「秋蚕後引続キ土器天狗面制作高尾山土産品店四五軒エ卸ス 高尾山登山者多キ日ニハボツボツ売行ナリ」
八王子では養蚕がさかんなため、7月下旬〜9月頃まで蚕を育てる秋蚕(あきご)も行わ

れていました。秋蚕が終わってから天狗面制作が行われていたことが記されています。出来上がった面は50〜60個まとめて、薬王院付近の茶屋に持っていったそうです。

天狗面作りの背景には、大正期以降に日本各地で進められた農民美術奨励策があります。農民自身の手で創られた美術的手工芸品を農家の副業とするため、各地で副業の奨励指導や農美術木工品講習会が行われました。当時の新聞記事では、浅川村で講習会が開かれたことや、高尾山は天狗にゆかりがあることから、秋の登山土産として天狗面を売り出す計画が持ち上がったことが報じられています。天狗面の制作が実を結び、1937年には『東京府の副業』の中で、八丈島の織物などと一緒に天狗面が紹介され、当時の高尾山のお土産物として知られるようになりました。

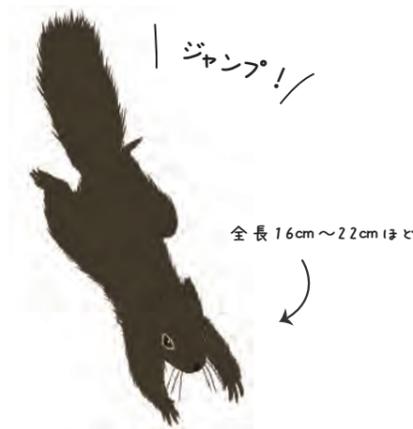
史料を紐解くことで、地元の方が高尾山の魅力を伝えるお土産物開発に真摯に取り組む姿や当時の暮らしの姿が見えてきます。現代も高尾山にまつわるさまざまなお土産物が店頭へ並び、当施設でも高尾山の自然の魅力をつめこんだお土産を開発しています。高尾山で選んだお土産がみなさまの楽しい思い出のひとつとして、記憶に残ることを願ってやみません。

〈解説員 かわまた〉

ニホンリスは冬に備えてクルミやドングリを隠しておくことが知られていますが、木の芽や虫、キノコなども食べる雑食動物です。秋になると食べ物求めて活発になるため観察のチャンス！頭を下にして木を駆け降りたり、ジャンプして別の木に飛び移る樹上生活の妙技には、思わず目を奪われてしまいます。

見られる時期：春から秋ごろ。特に朝方。見られる場所：山内に広く生息。

〈解説員 やぎぬま〉



ニホンリス 樹上を駆け回るアスリート



解説員の